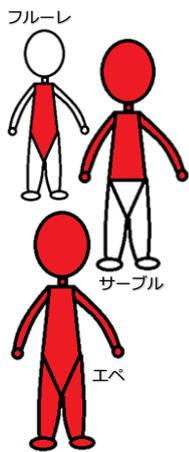
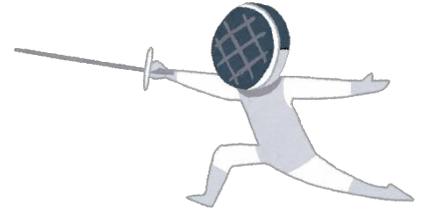


フェンシング

迅速な攻撃と反射、正確な足さばき、ハイテク機器、フェンシングは間違いなく代表的なオリンピックスポーツです。騎士の剣術に基づいているフェンシングは17世紀から正式なスポーツとして行われており、第1アテネ大会から各オリンピック大会で実施されています。

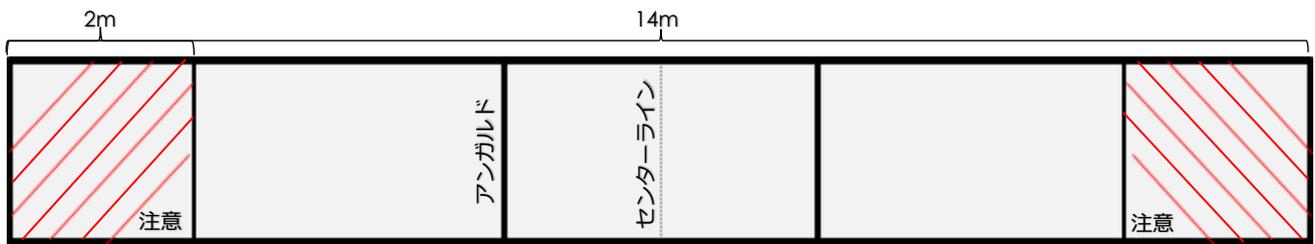


フェンシングは3種目を個人と団体で行われ、その3種目はサーブル、フルーレ、エペです。エペとフルーレで攻撃は突きのみですが、サーブルでは斬ることも出来ます。種目それぞれで使用する剣の形も少し異なりますが、3種目の主な違いは有効面、つまり突いたら得点となる体の部位です。フルーレの有効面は頭と四肢以外の胴体の表面、サーブルは腰から上の上半身、エペは全身が有効です。防具にどこを突いたかを示すセンサーが入っています。

個人の試合は3分の3セットで行われます。先に15点を取った選手、または時間終了までにより多くの点を取った選手の勝ちです。団体フェンシングは1チーム3人と交代選手1人で3分の9セットが行われます。総当たりで試合をして、先に45点を取ったチームまたは時間終了までにより多くの点を取ったチームの勝ちです。

フルーレとサーブルでは優先権制度が採用されています。つまり、先に攻撃しようとする選手に優先権が与えられ、選手らが互いに突いたら優先権を持っている選手の得点となります。エペにはこういうルールがありませんので両選手の得点、いわゆる「タッチ」となります。

フェンシングには多様な技があります。守備の基本技は「パラード」といいます。パラードとは優先



権を持った相手の攻撃を払うということであり、パレードをした後で反撃（いわゆるリポスト）すると優先権を得て、得点チャンスとなります。

フェンシングは「ピスト」というコートで行われます。縦 14m 幅 1.5-2m のピストにセンターライン、開始するときに後ろに立つ「アンガルド」ライン、そして両端に縦 2m の注意辺があります。横の線を出ると相手に 1m の有利を与えられます。端を越えるのは相手の得点となります。

日本は近年フェンシングが強くなってきました。2008 年北京大会で日本初フェンシングメダルを取った太田雄貴選手を始め、東京 2020 大会に向けメダルを目指している若者が相次いで登場しています。その中で、豊橋出身フェンシング優秀姉弟の尾矢二千花選手と尾矢陽太選手が共にオリンピック出場を目指しています。二千花さんはエペ、陽太さんはサーブルで争います。フェンシングの出場は 4 月 3 日の世界ランキングに従って決定しますので、出場に向けてぜひ応援しましょう！

強豪国のフランス、イタリア、ロシア、ハンガリーはメダルの常連ですが、ホストタウン相手国であるドイツもフェンシングがかなり強いです。3 回ワールドカップで 3 回金メダルを受賞している Max Hartung 選手が現在サーブル世界ランキング 2 位であり、Leonie Ebert 選手が現在女子世界フルーレランキング 9 位です。今年、ドイツはいくつの金メダル手に入れるのか、観てみましょう！